

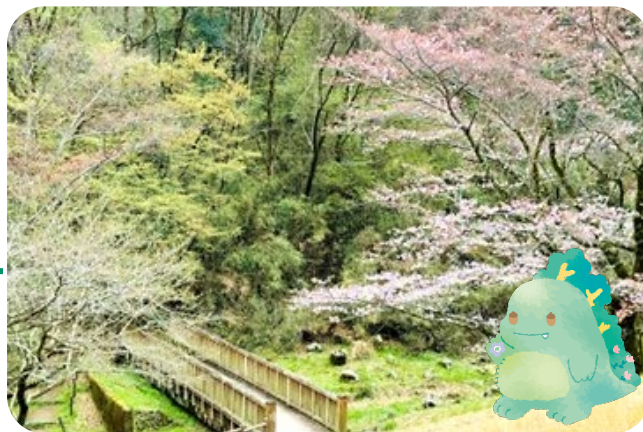
事業報告概要書（公表版）

1 基本情報							
施設名又はグループ名			指定管理者名及び団体概要				
多摩丘陵グループ			（指定管理者名）公益財団法人 東京都公園協会 （団体の概要）都市緑化の推進、公園や水辺を通じた安らぎとゆとりの提供を目的として設立され、公益目的事業（指定管理者事業を含む）及び収益事業を行う。				
指定期間							
R5.4.1 ～ R10.3.31（5年間）							
2 施設名		3 収支(単位:千円)					
長沼公園、平山城址公園、小山田緑地、小山内裏公園、桜ヶ丘公園		項目	令和6年度 金額	令和5年度 金額	令和4年度 金額	公園別支出額 長沼公園:75,839 平山城址公園:48,848 小山田緑地:147,881 小山内裏公園:161,286 桜ヶ丘公園:200,903	
		収入 計	631,302	403,329	348,353		
		内訳	指定管理料	631,302	403,329		348,353
			利用料金		0		0
			その他収入		0		0
		支出 計	634,756	402,496	328,101		
		収支差	△3,454	833	20,252		
4 管理運営の概要							
○多摩大学・京王観光株式会社・多摩市・稲城市・八王子市・日野市・町田市から構成されるタマリズムプロジェクトに参加、ドラフト会議にてつながった学生2団体と、さとやまブックファーストでのアートワークショップ（小山内裏）、桜ヶ丘の灯りでの竹灯籠イベント（桜ヶ丘公園）を実施した。 ○桜ヶ丘公園開園40周年、小山内裏公園開園20周年の節目の年でもあり、各公園で周年事業イベントを開催し、公園の歩みや取組、ボランティア活動等についてもPRした。 ○パークミーティングを初開催し、関係団体やボランティア団体等の意見を集約し、今後の課題を検討することができた。（長沼、平山城址、小山田緑地、桜ヶ丘）。 ○多摩丘陵エリア5公園の植物情報が掲載されている「たまきょうりゅうの生きものアーカイブス」の稼働を開始することで、公園の見頃の花を検索できるようになった。（長沼、平山城址、小山田緑地、小山内裏、桜ヶ丘）。 ○里山情報連絡会を外部参加団体やボランティアと共に2回開催した。第1回は八王子市にある長池公園で現地視察を行い、人と自然が共生できる持続可能な環境整備の事例を関係団体に紹介した。第2回は町田市による「町田市里山環境活用保全計画」の事例紹介や小山田緑地の管理の取組について紹介し、R7年度に開催する「つながる里山サミット2025」に向けた準備を進めた。							
5 管理状況							
①維持管理							
○長沼公園でのドローン撮影、解析によるナラ枯れ等危険樹木の状況把握・作業優先度の設定と伐採にGISを活用し、住民要望に対する正確な記録分析及施工計画策定、東京都からの調査等に対応した（長沼、平山城址、桜ヶ丘）。 ○竹林整備作業の発生材を各種事業で活用した（町田市薬師池公園びっちより祭り水鉄砲コーナー、連光寺小学校炭焼き体験、サクラ苗木根本保護、ミニ門松作り、土砂流出防止そだ柵等）（長沼、平山城址、桜ヶ丘）。 ○年間を通じてボランティアと協働で、希少種の生息環境整備やモニタリング調査等を実施した（長沼、平山城址、桜ヶ丘）。 ○公園のイメージアップ・利便性向上について誰でも手軽に参加できるシール型アンケートによる意見収集、パークミーティングにて関係団体と意見交換を実施し、寄せられた意見を基に、多摩丘陵イメージキャラクターを使ったベンチのリニューアルを行った（桜ヶ丘）。 ○台風による土砂災害時にも関係各所と連絡を取り合い、迅速に応急処置を行うことで園内の安全確保に務めた（長沼公園、小山田緑地）。 ○生物多様性の保全として生育域外保全を神代植物公園植物多様性センターと連携して行い、東京都工事による一時退避や希少種であるミズハコベの植生回復に繋げた（小山田緑地）。 ○サンクチュアリの環境改善を継続した結果、ゲンジボタルの最大発光数過去最多の前年比133%、92頭を記録更新し、普及啓発のため地元小学校に向けたホタル観察会も開催した（小山内裏）。 ○園内のヤマユリは丁寧な作業により今年度2019年度からの5ヶ年平均の163株より133%増の217株となった（小山内裏）。 ○小山内裏公園尾根緑道で剪定したシラカシの枝葉を多摩動物公園のゾウの給餌に利用した。また日常的に発生する雑木や花壇の花なども加工、乾燥等のひと手間を加えてクラフト材としてイベントなどで活用した（小山内裏）。 ○近隣の連光寺小学校の総合的な学習の時間内「里山体験活動授業」の一環として、丘陵地レンジャーが解説・指導を行い、タケノコ採取によるモウソウチクの竹林の間引き作業体験を支援した（桜ヶ丘）。 ○外部専門家による水辺整備の助言を基にゲンジボタルの生息環境保全のための手入れを行ったことにより、本年度の最大発光数は、2021、2022年度の20頭程度から40頭と約2倍の増加となった（桜ヶ丘）。 ○開園40周年に合わせ、経年劣化により腐朽の進行していた指導標21基の補修を2か国語表記により行った（桜ヶ丘）。 ○大学生インターンシップや近隣中学校との協働で、宇宙桜やヤマザクラの保護を行った（桜ヶ丘）。 ○ナラ枯れ被害木処理では、5公園での伐採計画本数1,065本のところ、約2.7倍となる2,963本の伐採処理を行った。また、これまで残置されていた伐採木の搬出を積極的に行ったことで林床の整理が進み、林床植生回復に努めた。更に、ナラ枯れにより荒廃したコナラ・クヌギ林の再生を検討・計画を立て、平山城址・小山田緑地・小山内裏・桜ヶ丘では、コナラ等の補植54本も進めた。							
②利用者への対応							
○近隣町会と調整し、繁茂時期の適切な草刈により園地外周部における美観を改善・維持した（長沼）。 ○八王子市と連携し公園と隣接している宮嶽池付近の解説も行い、地域で一体となって環境保全に関する周知を行った。（平山城址）。 ○東京きのこ同好会と連携し、きのこに特化したガイドウォークを初開催した。（長沼、桜ヶ丘）。 ○収穫祭を開催し、コロナ前と変わらない賑わいとなった。マルシェを同時開催したことにより、来園者と出店者である近隣住人との交流の場も創出することができた（小山田緑地）。 ○南大沢図書館、東京都埋蔵文化財センター、八王子市学芸員、南大沢図書館、立正大学文学部史学科職員と連携したさとやまブックファーストでは、サンクチュアリ内にある瓦尾根の窯場を見学を初開催し、サンクチュアリの保全と多摩の歴史について紹介した。（小山内裏）。 ○近隣小学校と連携した体験授業では、準絶滅危惧種のシオヤトンボの生息地保全活動、雑木林の後継樹育成プログラムやかいぼりに伴う水生生物捕獲、外来種の処分の取組を行い、生物多様性の大切さを伝えた（小山内裏）。 ○年間を通じて特別支援学校多摩桜の丘学園に協力し、小学部の全6学年117人に丘陵地レンジャーが環境教育アクティビティを提供した（桜ヶ丘）。 ○ドッグラン利用登録申請のWEB受付を開始。パソコンやスマートフォンから24時間申請可能となり、利用者の利便性が大きく向上した（小山内裏、桜ヶ丘）。							
6 利用者アンケート結果							
実施方法：公園内で調査票を配布・回収／QRコード掲示によるWEBアンケート							
施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の対応		
長沼公園	4.8	4.6	4.7	4.6	4.6		
平山城址公園	4.7	4.6	4.7	4.6	4.5		
小山田緑地	4.7	4.7	4.8	4.9	4.9		
小山内裏公園	5.0	4.9	4.9	4.9	5.0		
桜ヶ丘公園	4.8	4.7	4.7	4.8	4.7		
7 入園者数の状況（単位：人）							
施設名	当該年度	分析					
長沼公園	65,233	地元住民からの要望や東京都工事との調整を丁寧・適切に行い、安心安全な公園環境を維持した。					
平山城址公園	24,644	ボランティアとの協働により保全した希少種や自然環境を、イベントや外部の調査研究のフィールドとして活用した。					
小山田緑地	438,495	共創によるセンター前トイレリニューアル、収穫祭やマルシェ、パラスポーツへの取組等で誰もが快適に公園を楽しめる環境作りに努めた。					
小山内裏公園	737,249	どんど焼きの有観客開催やパークミーティングの初開催など地域やボランティアとの連携を深め、広げる取組により公園の利用価値を高めた。					
桜ヶ丘公園	269,353	既存の枠にとらわれない協働先を開拓し、新規イベントでの連携を深めるとともに、公園からの情報発信に努めた。					
合 計	1,534,974						



長沼公園

雑木林と沢が織りなす自然の楽園
四季の美が息づく丘陵地



所在地：八王子市長沼町・下柚木・堀之内
／開園面積：36.70ha

パートナーシップで公園の新たな魅力を引き出そう！



NEW きのご観察会

東京きのご同好会メンバーと丘陵地レンジャーが、**園内の自然情報や歩きながら発見したきのごについて解説する観察会を初開催。**
長沼会館に移動後に実施した同定会では、確認された87種のきのごの特徴や生育環境について解説を行った。
雨量の少なさ等の様々な要因により種数的には例年よりも少なかったが、タマゴタケ等の特徴的なキノコも数多く発見できたことで満足度の高い観察会となり、**長沼公園の新しい魅力を伝えることができた。**



同好会講師による専門解説。きのご観察が初の参加者にも大好評。



87種（うち不明30種）が確認された

要望に応え開催時期を拡大！「長沼・平山城址公園を歩こう」

NEW 新緑の長沼・平山城址公園を歩こう

・**秋以外の季節での開催要望に応え**、丘陵地レンジャーや丘陵地ボランティア、東京農工大学教授の案内で、長沼公園～大学のフィールドミュージアム多摩丘陵～平山城址公園東園を巡るウォーキングイベントを**新緑の季節に初実施。**

・大学との連携を活かし、研究や実験への環境活用解説を行った。従来の自然観察会とは一味違い、**専門的な知識を現地で知ることができると**、参加者から好評を得られた。



観察ポイントではパネルも活用して解説



大学教員より研究内容を紹介



自然災害への備え 安心安全な公園を維持する取組

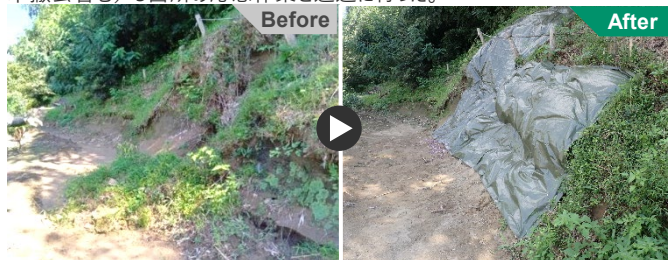
Update 台風・大雨の影響への迅速な対応

2024年8月31日からの台風10号の大雨の影響により園内10箇所において土砂崩れ等の大小の被害を受けた。現地確認による被害状況の把握を迅速に行い、**危険箇所については緊急対応として封鎖による安全確保と各種う回路の設定・案内を実施**。東京都ほか関係各所に情報を共有し、X（旧Twitter）及びHPにより、**園路の開放状況をリアルタイムに発信**した。緊急時対応を行う委託業者による作業を行うことで、9月11日までに園内の園路に関わる箇所について応急復旧を完了。毎日の巡回時経過観察の結果、崩落後2週間が経過した9月12.13.14日時点においても現地状況の変化がないことを確認。**安全が確保された状態で迅速に封鎖箇所の開放まで行うことができた。**



西尾根の法面崩壊が発生。ほか日邸団地、栃本尾根北側、霧降の道（倒木撤去含む）3箇所の応急作業を迅速に行った。

人力により土砂撤去を行い法面部の整地後、土のうで法面を抑え表面部をシートで覆いピン等で固定。法面崩壊を抑制した。



栃本尾根北側 土のう積み及びシート張り実施状況



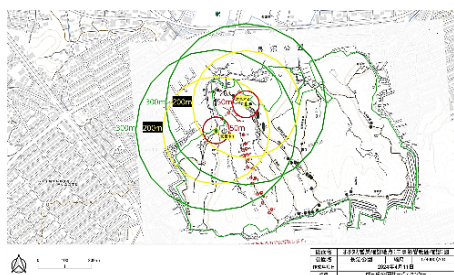
畑側への土砂流入を防止するため仮設土のうを設置し大雨に備えた

デジタル技術を駆使した維持管理

Update 野生生物への影響を視覚化 QGISを活用した作業時期調整

野生生物の営巣が確認された樹木の位置データを記録し、**成長段階に対応した工事作業の影響範囲をGISを活用して描画**した。描画画面に基づき、ナラ枯れ処理、樹木剪定、その他要望対応等の施工時期を丁寧に調整することで、**影響の最小限化と迅速な作業を両立させた。**

影響範囲を具体的かつ分かりやすく**視覚化することで、施工内容及び時期の意図が正確に要望者に伝わり、センター・担当職員それぞれに多くの感謝の声をいただいた。**



GISによる野生生物影響範囲の描画資料

NEW 立入調査困難箇所の視覚化 ドローンを活用したナラ枯れ調査

丘陵地公園の中でも特に起伏が激しく、樹木調査が困難な長沼公園において、ドローンを活用した最新技術データ解析による**園内全域の樹木の植生状態・活性度についての調査を初実施**。園内樹木の現況把握につなげることができた。

空撮画像によるナラ枯れ点と地形・園路データをGISで重ね合わせ、位置情報に基づく枯損木リストを作成し、**伐採作業計画の優先度や発生材搬出ルート設定資料として活用**。園路沿いから処理を行うなど優先箇所を決め、**325本の伐採を実施**した。



撮影したデジタルオルソ画像を解析した結果、上図の黄色の箇所に990本の枯損木発生が見られることが判明した



平山城址公園

歴史と命薫る里山の魅力 四季の風景に心癒される散策路



所在地：八王子市堀之内／開園面積：12.00ha

地域一体となった里山環境保全・普及啓発 八王子市との連携開始

NEW 里地里山体験！身近なところに別世界が！ ～平山城址公園・宮嶽谷戸・堀之内寺沢里山公園ウォーキング～



八王子市の後援を受け、平山城址公園駅を出発し、平山城址公園～宮嶽谷戸～堀之内寺沢里山公園（希望者は京王堀之内駅まで）をつなぐ全長約6キロのコースを巡るガイドウォークを初開催。八王子市、八王子市ボランティアとの連携により、**管理者の枠を超えた地続きの地域全体での自然環境利活用の道筋を作ることができた**。また参加者よりボランティア活動への参加希望相談を受け、活動見学と新規加入に至っており、**環境保全意識の醸成・保全の担い手育成につなげることもできた**。



猿渡の池では整備の狙いの解説と水生生物を観察



八王子市ボランティアによる、宮嶽谷戸周辺の解説

NEW 丘陵地レンジャー体験 ～里山の水環境を考える～

八王子市の後援を受け、公園東園内にあるトウキョウサンショウウオやヤマアカガエルの産卵・生息地となるため池の整備作業体験を実施し、小学生、若者、高齢者と幅広い年齢層が参加。保全作業や調査の意義を学んでいたとともに、整備後には**ヒメアカネの飛来やヤマアカガエルの産卵を確認するなどの成果も得られた**。



体験を通じ、宮嶽池と源流部の地理的關係や生物多様性について学習

NEW 冬の里山で遊ぼう！

八王子市と連携し、小学生を対象とした、谷戸の自然環境とそこに暮らすいきものを学ぶクイズ、自然素材を用いた工作教室を実施。遊びや工作を通じ、環境保全を考える上で、**隣接する地域が一体となって「外来種を入れない・増やさない」を徹底することが重要であることを学んでいたことができた**。



自分で見つけた素材で作る「クリスマスリースづくり」



要望に応え開催時期を拡大！ 「長沼・平山城址公園を歩こう」

NEW 新緑の長沼・平山城址公園を歩こう

- 秋以外の開催要望に応え、丘陵地レンジャーや丘陵地ボランティア、東京農工大学教授の案内で、長沼公園～大学のフィールドミュージアム多摩丘陵～平山城址公園東園を巡るウォーキングイベントを**新緑の季節に初実施**。
- 大学連携だからこそできる研究や実験への環境活用解説には、従来の自然観察会とは一味違うと、**知的好奇心の充足・自然資源の保護活動への理解促進成果**が得られた。



生物多様性保全整備事業の解説



大学敷地内では実験施設を見学

小学校の授業に即した体験型学習イベント

NEW キッズレンジャー体験 こども自然学習 ～樹木と森のいきものについて知ろう～

園内を歩きながら見つけた生物の観察と昆虫等の採集、**生き物ピースを使用したオリジナルマップ作成により、生物の生息場所や好む環境の違いを学ぶ体験型学習**を実施。

公園の自然環境の多様性とその保全、外来種の適切な駆除及び在来種保護の重要性を普及啓発することができた。

後日参加者から、子どもの理科の**テストでイベント内容と同様の問題が出題され、高得点を取ることができた**と感謝の言葉もいただいた。



捕まえた昆虫について、丘陵地レンジャーが解説

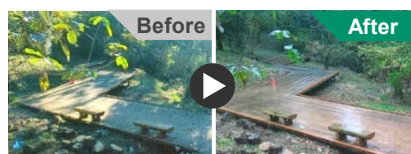


見つけた生きものがどのような場所にいたか生き物のマグネットを使用して確認

設備の機能改善・長寿命化に配慮した維持補修

Update デッキ地覆の補修

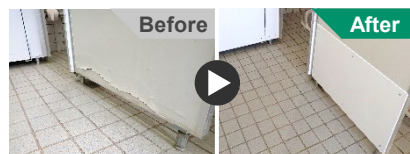
・経年劣化による割れ等が発生したひだまりのデッキ、終わりと始まりの広場の地覆について調査・補修方法検討を行い、結果を踏まえ、**ねじれ割れの少ない木材を選んで地覆補修を実施。美観向上、長寿命化**につなげることができた。



補修により美観と耐久性が改善

Update トイレ仕切りパネルの補修

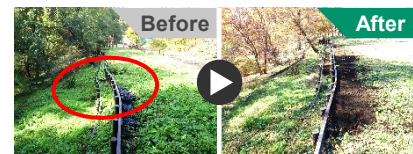
トイレブース内の仕切りパネルの劣化部分について補修を行い、**美観向上と長寿命化**を行った。また、各ブースドアの戸当たり先端のクッションゴム劣化・欠損部分を補修・新規取付し、**安全・快適に使用できる環境を維持**した。



補修により美観と快適性が向上

Update 法面土留めの補修

中央広場口斜面土留め柵の下部に台風の影響と思われる雨水浸食による穴と土留め柵の歪みを発見したため、**土嚢で塞ぐことで土砂の抜けを応急的に抑止し**、委託により丸太24本を打ち込み土留め柵14.0mの補修を実施した。



直営、委託作業の連携により安全を確保



小山田緑地

地域に根付き
町田市から東京都を
代表する緑地へ



所在地：町田市下小山田町／開園面積：44.51ha

近隣団体とのホットラインの構築

NEW パークミーティングを初開催

- 小山田緑地はゴルフ場、寺、民地が入り組む地理的な特徴があるが、これまで維持管理の取組における関係者の連絡網がなく、独自に処理を行ってきた。今後スピーディーかつ安全に処理を行えるよう、共通の地図を作成し、それを利用し連絡を取り合うホットラインを構築するべく、公園からの働きかけによりパークミーティングを初めて開催した。
- 地図は使いやすく、今後も地図のブラッシュアップや樹木処理に関する相談・連携して行く方向で意見が一致し、地域で一体となった安全管理を行う足掛かりになった。
- 小山田緑地が開園して初めてのゴルフ場、大泉寺、まちづくり協議会合同の取組や情報交換の機会が実現し、今後の連携強化につながった。



会議の様子

参加団体：東京国際ゴルフ倶楽部支配人、大泉寺総代・住職、小山田まちづくり協議会会長。※下小山田町会には収穫祭時に資料を配布し、情報共有



メッシュ入りの地図を作成

地域とのつながりを深め、地域の魅力を発信

NEW 「ずしまちいち」

- 町田市内の緑地関係者が運営する“まちだみどり活用ネットワーク”が計画した、地域の食や体験・展示からみどりや自然が生み出す魅力を発見することがテーマのおまつり「ずしまちいち」に参加協力。多摩丘陵の公園キャラクター“たまきょうりゅう”によるPRを積極的に公園外に展開し、小山田緑地の魅力を広く発信した。



ずしまちいち来場者約400人

Update 「収穫祭」・「りよくいち」

- 今年で20年目になる収穫祭を開催。マルシェ「りよくいち」を同日に開催し、集客に貢献した。
- 園内で採れたもち米や近隣農家の野菜を販売し、多くの来園者に町田市の地域の魅力や特産品を楽しんでもらう機会を提供することができた。



収穫祭来場者520人
りよくいち来場者12月80人

Update 近隣自治会、小学校との連携

- 近隣小学校、近隣自治会との1年間で通じた連携・協働で竹林整備や探検マップ作り、竹灯籠作り、お正月飾り作りを計6回実施。近隣の方々へ向けて小山田緑地の自然の豊かさを伝えることができた。





デザインパネルを活用した分園への誘い

Update セルフウォーキング

- 令和5年度の「トイレone-up」事業で設置した地図（サインパネル）と統一デザインにした**分園版セルフウォーキングマップ**を作成。告知ポスターや本園版マップもブラッシュアップし、**セルフウォーキングマップ**をリニューアル展開した。
- 散策目的での来園者の増加にあわせて満足度向上を図るために、サービスセンター内の読書コーナーに**散策向けの本を増やすこと**や、**散策コースのデータの提供と高低差をデータで提示すること**により新たなコースを知ってもらい、より深く園内や多摩丘陵の魅力を伝えることができ**来園者の満足度向上につなげた**。
- 年間で通算**265人**が参加し、前年度の年間148人対して**180%アップ**した。



町田市と連携し里山の利活用を検討

Update 里山情報連絡会

- 町田市主催イベント等への日頃の協力を契機に、市や小山田緑地における**里山環境の活用及び保全の取組について関係団体と情報を共有する「里山情報連絡会」**を市と連携して開催。
- 人と自然が共生できる持続可能な環境整備の計画や事例を、参加した**15の関係団体**に紹介・共有し、**里山の利活用について意見交換**を行うことができ、次年度本連絡会の拡大版として実施を予定している**「つながる里山サミット2025」**の布石ともなった。
- 現地視察も実施することで、**生物多様性に関する具体的な取組や管理状況を発信することができた**。



パネル展示も実施



維持管理について現場にて説明

丘陵地レンジャーによる生物多様性の取組

NEW 初の生育域外保全を実施

サービスセンター敷地内でミズハコベ・コシオガマ等の**絶滅危惧種3種を含む希少植物6種**の生育域外保全活動を初めて実施。多くの来園者に「その場でガイド」も行い、生物多様性の普及啓発につなげた。育成した株は、**自生地への植え戻しに成功した**。



NEW アカデミックチャレンジ

多摩丘陵の生物多様性豊かな公園環境を、東京農業大学、東海大学、桜美林大学へ調査フィールドとして提供。さらに**学生の協力を得て藍染め体験イベントも初めて実施した**。

大学ならではの詳細な調査を丘陵地レンジャーがサポートすることを提案し、調査・研究結果を来園者へ向けて提供したことで、**今までにない公園の魅力を発信することができた**。



藍染め体験



ジョロウグモの生態調査

様々な手法で安全な園路を確保

NEW 台風後の園路補修・整備対応

- 台風後対応として水が溜まりやすい箇所**の崩落した園路が再び崩れることがないように登山道の整備法を応用した水切り**を設置。
- 水の流れにより滑りやすくなった箇所へ**砂利を散布**し埋め込むことで**滑り止め**を施した。
- 滑りやすく冬は霜が降りる園路には安全に通行できるよう**コモ**を敷いた。

様々な手法で園路補修・整備を行い、台風後も安全に利用できる園路を確保することができた。



水切りの設置



砂利の散布



コモの設置



小山内裏公園

豊かな自然環境や歴史資源が紡ぐ
人と人とのつながり



所在地：町田市、八王子市／開園面積：45.92ha

本を通じた交流機会の創出と地域の歴史資源の掘り起こし

NEW アートワークショップでの新たな連携

公園で本に触れる機会を提供する「さとやまブックファースト」において、南大沢図書館によるパークライブラリー（読み聞かせ）、**専門**
学校生が企画・提案したアートワークショップ（イースターエッグイベ
ント）、南大沢保健福祉センターの簡単からだチェックコーナー等の
複数プログラムを展開。**多様なコンテンツでこどもから大人まで楽し
めるイベント**に仕立てることで、**公園の新たな魅力向上**につなげるこ
とができた。



アートワークショップでのイースターエッグのクラフト体験

NEW 公園と地域の歴史を探る

南大沢図書館、八王子市文化財課、東京都埋蔵文化財セン
ターと連携し、冬期の公園行事として**地域の歴史や昔話の読み聞
かせ＋サンクチュアリ内の瓦尾根瓦窯跡見学ツアー**を初開催。自
然資源が豊富な当園が持つ、**歴史資源としての価値や遺跡に対
する潜在的なニーズの掘り起こしに成功した。**



窯跡前で専門家の説明に熱心に聞き入る参加者

20周年事業を通して、公園・地域への愛着を深める

Update いこいのコンサート

20周年事業として「小山内裏公園20周年の歩み」のパネル展示
やクラフト体験、ボッチャ・モルック体験もできる特別なコンサートを
開催。「子どもたちの健やかな成長や多世代の交流の場」や「多様
な生物の貴重な生息・生育空間」であることを**開園20周年を契機
にあらためて来園者にPRし、様々な形で感謝の意を表した。**



Update わんわん運動会

里山広場を会場にドッグランボランティア「わんわんサポーターズ」と
協働して犬の運動会を開催。公園の運営を支える**ボランティア団
体を紹介する展示パネルを作成し、ドッグランボランティアの活動PR
やメンバー募集の声掛け等**にも協力した。来園者や参加者同士の
交流も盛んに行われるなど、取組を通じて**犬のマナーの普及啓発が
図られるとともに、公園の知名度アップや利用促進**につながった。





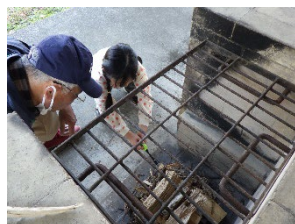
地域との連携による公園事業の推進

Update 子育て世代も参加できる防災プログラム

地元消防署と連携し、里山広場・パーベキュー広場において防災イベントを実施。防災について「学ぶ」ことに重点を置いたプログラムとし、非常持出品や防災パネルの展示・車椅子体験・水消火器体験・火起こし体験等のメニューを展開した。近隣に居住する子育て世代にもアプローチし、防災意識の向上を図る取組となった。



親子で水消火器体験



初めての火起こしに挑戦

Update 地域住民の声を公園管理に反映

公園ボランティアや地域団体等、公園に関わる人たちと意見交換を行うパークミーティングを2回開催。この取組を通じて信頼関係や連携の強化を図り、地域に根差した魅力あふれる公園づくりに協力していただくことができた。近隣自治会等の出席を促し、団体毎の課題を共有しつつ、今後のイベントでの連携や公園管理の課題についても意見交換を行うことができた。



意見交換にて積極的な意見交換

創意工夫や詳細な調査・診断等に基づく効果的な維持管理

Update 剪定の発生材の活用

シラカシの剪定枝を多摩動物公園の動物の餌として提供することで、発生材の有効活用と7.2 t 相当の処分費を削減。枝葉を圧縮しない質及び量のあるシラカシはアジアゾウ・アフリカゾウをはじめ、チンパンジー、モウコノウマ、ヤギ、インドサイなど多様な動物にも給餌されることとなり、公園資源を有効に活用する結果となった。



多摩動物公園と連携し剪定枝を有効利用



Update タマノホシザクラの環境整備

基礎点検を行ったサクラ類のうち、樹木医による詳細な診断を行った8本のサクラの診断結果をもとに、台風や積雪などにより倒木の被害を受けたタマノホシザクラについて、直営作業による根起こし、支柱設置作業を実施した。これにより、希少種の健全な生育環境を整備することができた。



直営作業によるタマノホシザクラの保護

適切な管理による公園環境維持

ナラ枯れ木への対応

ナラ枯れ対策としてクヌギ、コナラ等の枯損木を1年間で700本剪定、伐採を実施。来園者、近隣施設の安全安心を確保し、良好な樹林環境の維持につなげた。また、ナラ枯れにより荒廃したコナラ・クヌギ林の再生に向けて14本の補植を実施した。



ナラ枯れへの対応

継続した連携による増殖の試み

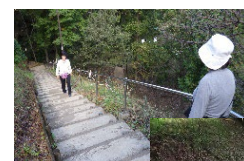
公園ボランティアとの協働により希少植物のマーキング、選択的除草を実施。神代植物公園植物多様性センターとは、コバノカモメヅル、クサレダマ、コシオガマ、ヒキヨモギなどの育成、増殖を協力して実施。また、外部専門家からの助言を得ながらサンクチュアリ内の環境維持や改善を施すことで、増殖の成果を高めた。



園内の希少植物の保全と増殖

NEW 施設改善による課題解消

園内の主要動線であるが幅員が狭く来園者の歩行すれ違いが困難であった階段42段について、幅員1.4m以上を確保。快適な歩行が可能になるとともに腐朽した土留板をプラ擬木に交換し施設を長寿命化。



▲施工前

▼施工後





桜ヶ丘公園

桜咲く里山、明治の足跡
自然と歴史が響きあう憩いの公園



所在地：多摩市／開園面積：33.99ha

地域に広がる竹灯りの輪 桜ヶ丘公園開園40周年イベント『桜ヶ丘の灯り』

NEW 特別な夏の思い出「桜ヶ丘の灯り」

多摩大学・多摩レクリエーション協会準備会・連光寺児童館との協働で、開園40周年を祝う**竹灯籠イベント**を初開催。来園者約**200人**と大盛況で、夏の夜の賑わいを創出することができた。この取組をモデルケースとして、市内外の公園や公共施設で竹灯籠の取組が実施・計画される等、**近隣地域の取組の先駆け**となった。



当日のライトアップの様子

NEW みんなの作品が公園を彩るワークショップ

児童館・多摩レクリエーション協会準備会と連携したワークショップを開催。安全に楽しみながら**オンリーワンの竹灯籠**を作る体験を提供し、完成した竹灯籠は「桜ヶ丘の灯り」で点灯させた。児童館で行った4日間の事前ワークショップは**110人の参加**を記録し、**地域連携の結果、これまでにない規模での実施が実現した**。



事前ワークショップ（連光寺児童館）

NEW 公園の歩みと多摩丘陵の魅力を伝えるパネル展示

「桜ヶ丘公園40周年の歩み」や竹林放置問題啓発パネルの展示を実施。社会問題や**生物多様性保全の取組の意義を学んでいただく**とともに、公園の歴史と来園者それぞれの思い出を重ね、**公園や地域への愛着をより深めていただく**ことができた。



公園の歴史について質問する方も

Update 子どもの創造力を引き出す発生材を使った竹遊び

竹を使った遊びコーナーでは、**大学生の協力の下、水鉄砲・竹ぼっくり・竹とんぼ遊びを展開**。ライトアップ本番までの待ち時間も楽しんでいただいた。参加した小学生からは遊びのアイデアが生まれるなど、子どもならではの豊かな創造力が引き出された。



熱中症対策も合わせて水鉄砲遊びも

NEW 竹灯籠はさらなる展開へ

『桜ヶ丘の灯り』で築いた連携体制を活かし、地域の里山とその有効活用をテーマとする近隣小学校の総合的な学習の時間に協力。**公園職員と地域関係者協働による出前授業を展開し、子どもたちへ緑の役割や重要性を伝える環境教育を強力に支援した**。



子ども達が作成した竹灯籠



パートナーシップで公園の新たな魅力を引き出そう！

NEW きのご観察会



東京きのご同好会メンバーと園内を巡りながら**発見したきのこの解説**を行う観察会を初実施。この時期に見られる種数を**65種**を網羅した。「いつも来る公園で新しい発見がありました」「キノコの専門的な話を聞けて子供もとても刺激を受けたと思います」等好評をいただき、**新たな公園の魅力を届ける**ことができた。



きのご同好会講師による専門解説

NEW 防人の道・古代東海道ウォーク ここまでわかった！古街道展

歴史古街道団と連携し、公園近隣に縁の地がある防人をテーマに、**歴史解説を交えながら園内～地域を巡るウォーキングイベント**を実施。参加者**67人**。古街道団主催の展示会にも出展協力した。**公園及びその周辺地域がもつ歴史にフォーカスするイベント**により、これまでとは視点の違う公園の魅力発信をすることができた。

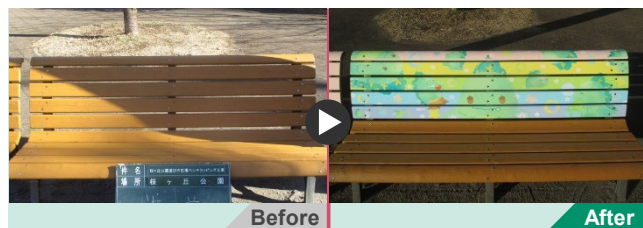


飛鳥・奈良時代に多摩で起こっていた出来事を再現

みんなの意見を反映し、長く愛される「映えスポット」の創出

NEW ベンチone upプロジェクト & パークミーティング

- 利用者と共にベンチをリニューアルする「ベンチone up プロジェクト」を展開。初開催したパークミーティングにおいて、参加メンバーから公園ユーザーサイドの視点で意見をいただき、リニューアルの**アイデアに反映**させた。また、イベント開催時等に来園者からも**聞き取り調査やシール型アンケート**を実施し、声を集めた。
- 多摩丘陵の公園キャラクター「たまきょうりゅう」を使用した**デザインのベンチラッピング**を行い、**新たな人気スポットを創出**した。



従来のベンチ

ラッピングによるリニューアル

生物多様性保全と、生きもの情報発信の新たな取り組み

Update 100年続くホタルの里を目指して ホタル生息地と観察スポット整備

専門家の助言を基に今年度は**作業エリアを拡大**して整備に着手。**GISを活用して全体のデザインと整備方針を策定**し、約4ヶ月をかけてしょうぶ池と周辺水路の整備、ホタルの飛翔空間、来園者の観察空間を広げた。最大発光頭数は、2022年度の20頭程度から**40頭と約2倍に増加**。創出環境は専門家からも高く評価された。



飛翔空間が狭く観察もしにくい水路

ホタルに最適な環境に改善

NEW 市民と記録する調査データ 「多摩市生きもの調査隊」

多摩市と連携し、スマートフォンアプリ「iNaturalist」を活用した市民参加型調査「多摩市生きもの調査隊」を実施。職員も調査隊の一員として、**100人以上の市民調査員と協働で園内の動植物情報を記録**。園内では約4,000件・950種の報告中、**2,980件・685種が市の公式記録**として扱われる成果につながった。



アプリ画面（位置・同定）

夜間調査でホンドダスキの繁殖を確認